

2010年3月議会（1）武井市政1回目の一般質問 （2010年03月11日掲載）

2番 武井誠です。通告に従い市政一般質問を行います。

私は、総合政策行政について2点、教育行政について1点質問します。

初めに総合政策行政、坂戸市財政健全化のための計画、及び中期財政計画等について質問します。

中期的財政計画で示された今後の財政見通しは、深刻です。これまでと同じやり方で行くと、23年度に6億2700万、24年度に9億5000万、25年度に14億3400万、26年度に15億7300万円の財源不足が発生するとのこと、これは本当に由々しき事態です。

しかし、ともかくも、これ以上問題を先送りして、取り返しのつかないことになる前に財政健全化のための計画、及び中期財政計画が示されたことは、まずはよかった。このうちは、「すでに手遅れであった」ということにならないように、全力を尽くすしかありません。

しかし、2月23日の市長の施政方針演説、すなわち市執行部の姿勢からは、残念ながら、この危機感が、あまり伝わってきませんでした。前半、といっても全体の4分の3は、新しい事業への取り組みの説明、そして後半4分の1が、厳しい財政状況の説明、なにかアクセルとブレーキを同時に踏み込んでいるような感じを受けました。

第一に、市民が「何だ、財政危機といっても大したことはないのかな」と受け止めてしまうのではないかという危惧を感じました。

第二に市長は、松下幸之助氏の「かつてない困難からはかつてない飛躍が生まれる」という言葉を引用されていました。意欲・決意はわかりましたが、では、具体的にどうやって、困難から飛躍を生み出すのかというところがわかりません。そこが具体的に示されるべきであると思います。

一方、その後の総括質疑や、委員会の質疑は、福祉など様々な事業の後退を不当とする市民の声を代弁する質疑に対して、「もう引き返せないことだから」「お金がないので」「財政健全化計画に基づいて」という趣旨の、執行部答弁が多いと感じました。「まず、財政健全化計画ありき」という説明だけでは、市民の市政への不信感が増幅されるのではないかという危惧を感じました。また、所管業務をこえて答弁できない、という縦割りの壁も感じました。

では困難を飛躍につなぐにはどうしたらよいか。私は、こう考えます。

以前、荒廃した中学校を、「ソーラン節」の集団演舞や、班単位の助け合い授業、PTAの協力等の取り組みで、再生させつつある北海道稚内の中学校を視察したことがありました。その時のPTA会長の言葉が忘れられません。彼はこう言いました。「まだまだ学校に、不満はたくさんある。けれども不信は、ない。」と。私は、これが、この危機を乗り切るキーワードだと思います。

つまり、市民の理解と協力が最も重要であると考えます。「坂戸市政に不満はあるが、不信はない。」さらには、坂戸市を見捨てて、出ていったりしないで、「市当局も頑張っているんだから今、危機にある坂戸市の未来のために一肌脱ごう」という気持ちになってくれる人がどれだけ生まれるか、潜在するそういう市民パワーを引き出すために、どれだけ限られた予算の生きた使い方ができるかにかかっていると思います。

そのためには、まずなによりも、市民に今の坂戸市の財政状況を率直に説明するべきです。そして、痛みを分かち合って乗り越えていこうと呼びかけ、そのための提言や意見、特に、不正や無駄遣いへの厳しい監視の声や、市政の弱点を指摘する「耳が痛い」声にこそ、謙虚に耳を傾けるべきです。

「まちづくり条例」の先駆けとして有名なニセコのまちづくり基本条例は、その第10条に「私たち町民はまちづくりの主体であり、まちづくりに参加する権利を有する。」とあります。そしてその前提として、第3条に「町民は、町の仕事について必要な情報の提供を受け、自ら取得する権利を有する。」第4条に「町は、町の仕事の企画立案、実施及び評価のそれぞれの過程において、その経過、内容、効果、及び手続きを町民に明らかにし、わかりやすく説明する責務を有する。」とあります。

私は、これが坂戸市にとって、今、一番重要なことであると考えます。

そこで質問ですが、第一に「かつてない困難から、かつてない改革へ」具体的には、何を守り、なにを発展させていくのか質問します。

第二に、いずれにしても、市民の力が不可欠です。市民の知恵と力を結集するために、限られた予算を「生きたお金」として使うことが不可欠と考えますが見解をお伺いします。

第三に、財政健全化計画、中期財政計画の市民への説明が不足しています。今後、どのようにするのかお伺いします。

次に同じく総合政策行政、新しい公共交通のあり方について質問します。

財政健全化のための計画には、平成23年度に向けた研究検討事項として「市内循環バスの廃止を含めた抜本的な見直し」と記されています。すでに、飯田議員、大山議員も一般質問で指摘していましたが、財政健全化のための経費節減という観点だけからの検討のような、誤解を受けやすい表現であったと思います。

一方、1月12日の埼玉新聞などによると、国土交通省では交通基本法検討会が発足し、基本理念に国民の「移動の権利」の保障を掲げ、交通基本法の制定に向かって議論が始まっているとのことです。とりまとめ役の辻元清美副大臣の「基本法を制定すれば、自治体に地域交通を守る条例が広がるはず。地域に合った交通政策を計画してほしい」という発言が掲載されていました。

そこで質問ですが、第一に、財政健全化計画の中の「市内循環バスの廃止を含めた抜本的見直し」とはどういうことか、改めてお伺いします。

第二に、国における「交通基本法検討会」の設置理由と、このことについて坂戸市としてどう評価するのか質問します。

3つ目に、教育行政、今、求められている学力について質問します。

毎年50億円からの費用をかけて行われてきた、全国学力・学習状況調査、私はその問題点について一度ならず、一般質問で取り上げてきました。

教育評論家の尾木直樹氏が「子ども格差」その他の著書で、引用している、教育改革市民フォーラムが現場の教職員に行ったアンケート結果をもとに整理してみると

- ①競争、点数の独り歩きが、新たな差別や不正を生みやすい土壌を作る。
- ②テスト学力（決められた時間に、決められた正解をたくさん書く力）に取りつかれていては、洞察力や活用力を学力の土台に据えている今日の国際社会の学力観から取り残されるばかりである。
- ③調査から、結果通知まで時間がかかりすぎ、受験した個々の子どもたちの指導に、全く結び付かない。
- ④現場教職員に、資料分析をみる時間的ゆとりがない。分析結果やそれに基づく学習指導マニュアルも、50億円かけてこの程度かといった陳腐なものが多い。
- ⑤子どもに「やらされてる感」が強すぎて積極的に取り組む様子が見られない。といったことが挙げられます。

新政権となり、このいわゆる全国学力テストは悉皆調査から抽出調査になりました。けだし当然であり、妥当な変更であったと思いますが、本市は、あろうことか進んで、全小中学校での実施を希望し、4月に実施するとのこと。私は、この選択は誤りであると考えます。

そこでいくつか質問します。

第一に、抽出ではなく、全校で学力テストを実施する理由はなんですか。

第二に、そもそも学力とは何ですか。特に全国学力テストではかられる学力とは何ですか。意欲、関心、態度を重視するという「新学力観」等を踏まえてお答えください。

第三に、今までの、学力テストの結果分析でわかったことは、どんなことですか。それをどう伝えているかも、あわせて質問します。

第四に、学力テスト実施に伴い、全国で生じている様々な問題についてどう認識しているか。坂戸市にそういうことはないか、お答えください。

第五に、採点・分析業務をどうするのか、お聞きします。

第六に中学3年生に2回の学力テストが行われます。

私は、常任委員会の質疑でこれについても、問題ありと指摘したところですが、これに加えて全国学力テストを行うことによって、授業時数の確保はどうするのか。また「点数さえよければいい」「答えさえあっていればいい」という、偏った学力観が保護者、生徒にますます広がる懸念はないか、お伺いします。

視点を変えてもう一点質問します。

日本の子どもたちについて、大変、心配な調査報告があります。国連の専門機関ユニセフの2007年の調査によると、15歳の子どものうち、「孤独を感じる」と答えた割合が

他の経済先進国と呼ばれる23カ国が5～10%であったのに対し、日本だけが29.8%と飛びぬけているのです。2位のアイルランドの10.3%と比べても約3倍も高い。それを裏付けるかのように、近年心を病む子どもたちが急増しています。厚生労働省の研究班が行った調査では、中学生の4人に1人がうつ状態という驚くべき結果が出ました。普通の子どもたちが切れる、陰湿化IT化する「いじめ」、続発する子どもの犯罪・自殺、教員の疲弊・・・昨今の悲惨なニュースを例に挙げるまでもなく、早急な対策が求められています。このことを、教育改革市民フォーラムは「学校が壊れ始めている」と表現しています。学力テストに、時間と労力を費やしている場合ではないと思います。

確かに、よみ、かき、計算、いわゆる基礎基本の習得は重要ではありますが、それが、学力のすべてではない。生きる力と直接結びつくような授業、子どもが元気になる教育を合わせて行うことが今、求められています。

さて、この観点から、本市が、今所有している教育的価値をもつ財産をチェックしてみたとき、私は、環境学館「いずみ」の存在が、大変重要であると考えます。

そこで質問ですが、環境学館いずみを使った環境教育の意義について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。